

令和7年度東部地区道徳教育研究協議会

松伏町立金杉小学校

【低学年部会】

主 題 名 よいことと悪いことをよく考えて
内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任
教 材 名 「あさがおのかんさつで」
(彩の国の道徳「未来に生きる」)



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 導入で取り組んだクイズは、児童が身近に感じられ、自分事として考えることができる工夫であった。
- 教材に描かれていないことを問うことで、自分事として考えることができていた。
- 役割演技では、演技をしている児童だけでなく、見ている児童にも思いを問い、全体で話し合いを深めていた。
- 考えを広げたり、揺さぶったりするための問い返しを効果的に行っていることがよかった。
- 再度アンケートに戻り、振り返りを行うことで、自分との関わりで考えることができた。
- ICTを活用し、その場でアンケートを取り、結果をすぐに視覚化することもできる。

2 指導講評

- 入ってきた際の歌声、掲示物や整理整頓された教室環境、1時間1時間の積み重ね。各教科を大切にされている。学級経営も素晴らしい。
- 道徳教育と道徳科では、目標が大切である。
- 教師の心構えとして、共に考え、悩み、感動を共有し、学び合う姿勢が大切。その上で、児童生徒で聴き合い、議論することができる授業を目指していく。
- 指導の意図を明確にする。そのためには内容項目の理解が大切である。本教材の価値（情報モラル）についても、学校で広めてほしい。
- 目の前の子供たちをどう育てたいかという願いを込め、発問を作っていく。教師の発問に対して、教師児童のやりとりだけでなく、児童児童のやり取りが見られた。1年生の段階で、児童が児童の発言を受けて答えていることは素晴らしい。目の前の児童の実態、願いを込めてPDCAサイクルを回していく。

